



【集中講座】

エンジンオイル・サプライ

ENGINE OIL SUPPLY

末永く大事な愛車に乗り続けるために。いまでも昔も、基本はここから!

エンジンオイルは、エンジンの調子を保つ上で重要な役割を持っているのはご存じのとおり。しかし、その交換となるとディーラー任せでどんなオイルを入れているのかわからない人もいるのでは? 愛車に調子よく長く乗りたいのであれば、エンジンオイル選びは重要なポイント。では、どのように選ぶのがいいのか? エッソ・モービル・ゼネラルでお馴染み、EMG マーケティング・潤滑油本部のエンジニア、松井 明氏に分かりやすく解説していただいた。

多くの重要な役目を持つ エンジンオイル

異常な暑さが続いた今年の夏。内燃機関であるクルマのエンジンは、常に内部が熱にさらされているとはいえ、この暑さでより多くのストレスがかかっていたことが予想される。

例えば、帰宅時に長時間炎天下の渋滞に巻き込まれた。暑いので、駐車時にエンジンをかけたままエアコンをずっと入れていた、などという覚えはないだろうか。こんなとき、エンジンオイルは通常以上に負担がかかっている。そして、もしオーバーヒート気味になった記憶があれば、エンジンオイルは熱による劣化が生じている可能性が高く、エンジンの将来を考えれば早目に交換するのが望ましい。

そして、交換をするのであれば、少しでも良いエンジンオイルを選びたいもの。では、どのようにして選んだらいいのか? その前に、まずはエンジンオイルの働きについて簡単にさらしておこう。

エンジンオイルの大きな役割として、エンジン内部で動いている部分の潤滑作用がある。ピストンの上下運動やクランクシャフトの回転運動など、エンジン内部の部品同士が接している部分は、大きな摩擦が生じる。この摩擦を低

減させて、部品同士の摩擦や焼き付きを防止してスムーズな動きを維持させる。結果としてエンジン寿命を長寿命化させるのが潤滑作用の大切な役目だ。潤滑を促す薄い油膜は、ピストンリングとシリンダー間の気密を保ち、圧縮漏れや燃焼ガスの吹き抜けを防ぎ、エンジン性能を引き出す重要な密閉作用も持っている。

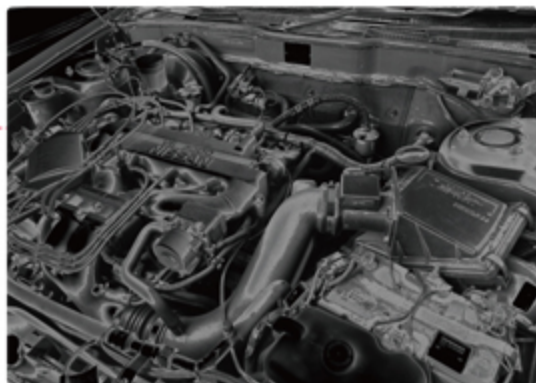
また、エンジン内部は高温になる。高温になった部品から直接熱を吸収して発散させる冷却作用も、エンジンオイルの重要な役割だ。さらに、エンジン内部の汚れを取り込み、エンジン内部に汚れを蓄積させないようにする清浄作用。エンジン内部がサビないようにする防錆作用など、エンジンオイルはエンジンを内側から守る多くの重要な役割を持っているのだ。

では、なぜエンジンオイルは交換しなくてはいけないのだろうか。その理由は簡単。ご存知のように、走行距離や使用時間とともに、エンジンオイルの性能が劣化するからだ。

エンジンオイルは 走らなくても劣化する

エンジンオイル性能の劣化の要因としては、熱、水分、空気(酸素)による酸化。添加剤の消耗やガソリンの混入等による粘度の低下。摩擦等による微細な金属粉や燃焼時に発生する燃えカス等の不純物の混入がある。酸化による劣化は、高温にさらされることだけでなく、エンジン内の金属に触れての反応や、空気に触れての反応でも酸化劣化が進行するので、走っていないクルマのエンジンオイルでも、時間が経過したら劣化するのだ。

また、エンジンオイルが十分に暖まる前にエンジンを停めてしまうようなちょい乗りが多いクルマも、エンジン内



暑い夏を経験したエンジンは、エンジンオイルが劣化している可能性大。エンジンのことを考えれば良いエンジンオイルに交換してあげたい。